

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年11月13日

【四半期会計期間】 第37期第2四半期(自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日)

【会社名】 株式会社免疫生物研究所

【英訳名】 Immuno-Biological Laboratories Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 清藤 勉

【本店の所在の場所】 群馬県藤岡市中字東田1091番地1

【電話番号】 0274-22-2889 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役事業グループ管理本部長 中川 正人

【最寄りの連絡場所】 群馬県藤岡市中字東田1091番地1

【電話番号】 0274-22-2889 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役事業グループ管理本部長 中川 正人

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第36期 第2四半期 連結累計期間	第37期 第2四半期 連結累計期間	第36期
会計期間	自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日	自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高 (千円)	333,360	384,479	758,286
経常損失 () (千円)	37,636	32,924	49,013
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損失 () (千円)	40,624	45,510	52,637
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	40,624	45,510	52,637
純資産額 (千円)	1,300,817	2,041,693	2,017,777
総資産額 (千円)	3,311,170	3,169,770	3,295,015
1株当たり四半期(当期) 純損失 () (円)	5.47	5.40	7.01
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	39.2	64.3	61.1
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	54,441	92,500	73,847
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	9,900	9,876	6,278
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	73,358	52,739	138,300
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	2,493,918	2,299,921	2,450,875

回次	第36期 第2四半期 連結会計期間	第37期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日	自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失 () (円)	2.79	0.09

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期(当期)純損失であるため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間の当社グループの業績につきましては、動物用体外診断用医薬品の牛海綿状脳症測定キット（BSEキット）、海外向けのEIAキットや抗体といった研究用試薬、血中リポタンパク質プロファイリングサービス「LipoSEARCH」、海外向けの化粧品の売上が好調であったこと等により、売上高は384,479千円（前年同期比15.3%増）となりました。利益面においては、売上高が増加したことや売上原価、販売費及び一般管理費において経費節減に努めてまいりましたが、製造設備の更新（当社グループは、資産計上は行わず一括費用処理としております。）等により、営業損失が37,512千円（前年同期は39,603千円の営業損失）となりました。また営業外損益においては、為替水準が前期末と比較して円安で推移したことから外貨建資産の為替差益発生等により、経常損失が32,924千円（前年同期は37,636千円の経常損失）、特別損益においては、当社グループが保有する土地の評価額の低下による減損損失の計上等により、親会社株主に帰属する四半期純損失は45,510千円（前年同期は40,624千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間の各セグメントにおいける営業利益においては、遺伝子組換えカイコ事業以外のセグメントにおいて、利益を計上することができました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

・診断・試薬事業

当事業においては、研究用試薬関連及び医薬用関連ともに順調に売上を計上することができました。研究用試薬関連においては、国内市場では主力の抗体関連製品の売上は減少しておりますが、海外市場において、取引先との関係構築や学会等への積極的な参加、さらに新規販売代理店との契約締結等に注力した結果、当第2四半期連結累計期間において、海外売上の大幅な増加として成果が顕著に現れております。医薬用関連においては、主力である動物用体外診断用医薬品の牛海綿状脳症測定キット（BSEキット）の売上が前年同期と比較して大幅に増加しております。

当事業の販売につきましては、国内の研究テーマにより時期的な浮き沈みがあり、不安定な一面もありましたが、海外販売の展開が徐々に増加してきたことにより、安定した販売を見込めるようになりました。今後も海外販売に注力し、安定した経営を目指してまいります。

その結果、当セグメントの売上高は265,690千円（前年同期比1.5%増）となり、営業利益は42,072千円（前年同期比8.7%減）となりました。

なお、当事業においては、継続して安定した利益創出を目指します。

・遺伝子組換えカイコ事業

当事業においては、各種抗体等の受託の売上のほか、iPS細胞等の培養足場材として有用であるラムニン511-E8が次第に認知度を高めており、売上が増加し始めております。

当事業においては、遺伝子組換えカイコを用いた医薬品製造を実現させるべく、抗HIV抗体をはじめとするバイオ医薬品開発、ならびに、その製造技術の開発を進めているところであり、事業の重点を研究開発に置いております。

その結果、当セグメントの売上高は11,848千円（前年同期比43.3%増）、営業損失は100,378千円（前年同期は86,239千円の営業損失）となりました。

なお、当事業においては、継続的に積極的な研究開発費を投じ、中長期的に企業価値の向上を目指します。

・検査事業

当事業においては、主力事業の血中リポタンパク質プロファイリングサービス「LipoSEARCH」において大型案件の受注があり、売上計上することができました。今後につきましては、従来に引き続き、診断・試薬事業部門と営業活動を共有化し、学会展示によるプロモーション活動を積極的に行い、双方のマーケット市場において販促活動を強化してまいります。

その結果、当セグメントの売上高は71,591千円（前年同期比23.4%増）、営業利益は12,081千円（前年同期比147.6%増）となりました。

なお、当事業においては、前期に引き続き、通期において利益創出を目指します。

・化粧品関連事業

当事業においては、「ネオシルク - ヒト型コラーゲン」配合化粧品「フレヴァン」シリーズの売上高につきまして、国内通信販売の売上が減少いたしました。中国での同化粧品の販売が承認されたことから、中国向けの販売を開始いたしました。中期経営計画でお知らせしておりますように、今後は大幅な売上の拡大が見込めるものと考えております。

その結果、当セグメントの売上高は37,122千円、（前年同期比414.8%増）、営業利益8,231千円（前年同期は4,810千円の営業損失）と、当事業では初めての利益を計上することができました。

なお、当事業においては、通期において利益創出を目指します。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産の残高は、前連結会計年度末比3.8%減の3,169,770千円となりました。この主な要因は次のとおりであります。

現金及び預金が144,954千円減少したこと、受取手形及び売掛金が34,961千円減少したこと等によるものであります。現金及び預金の減少につきましては、親会社株主に帰属する四半期純損失45,510千円の計上や、借入金の返済91,044千円等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末比11.7%減の1,128,077千円となりました。この主な要因は次のとおりであります。

新株予約権の行使により転換社債型新株予約権付社債が69,426千円の減少、借入金の返済等により1年内返済予定長期借入金及び長期借入金が61,044千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末比1.2%増の2,041,693千円となりました。

この主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により利益剰余金が45,510千円減少した一方、新株予約権の行使により資本金及び資本準備金がそれぞれ34,713千円増加したこと等によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は前連結会計年度末と比べ150,954千円減少し、2,299,921千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により支出した資金は92,500千円（前年同期は54,441千円の獲得）となりました。

この主な要因は、売掛債権の減少（回収）34,961千円といった資金増加要因の一方、税金等調整前四半期純損失41,180千円の計上、化粧品関連事業における中国向け出荷に備えた在庫の増強等によるたな卸資産の増加34,034千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により支出した資金は9,876千円（前年同期は9,900千円の支出）となりました。

この主な要因は、定期預金等の預入による支出9,000千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により支出した資金は52,739千円（前年同期は73,358千円の支出）となりました。

この主な要因は、長期借入金の借り換えによる長期借入れによる収入30,000千円の一方、長期借入金の返済による支出91,044千円等によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は92,695千円であります。

- (6) 主要な設備
該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成30年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	8,420,090	8,420,090	東京証券取引所 JASDAQ (グロ-ス)	単元株式数100株 完全議決権株式であり、権利内 容に何ら限定のない当社におけ る標準となる株式
計	8,420,090	8,420,090		

(注) 提出日現在発行数には、平成30年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年9月30日		8,420,090		2,671,015		1,703,395

(5) 【大株主の状況】

平成30年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を 除く。)の総数に対する 所有株式数の割合(%)
清藤 勉	群馬県高崎市	1,123,700	13.34
株式会社トランスジェニック	福岡県福岡市中央区天神2丁目3番36号	205,000	2.43
岩井化学薬品株式会社	東京都中央区日本橋本町3丁目2-10	200,000	2.37
中沢 和美	神奈川県藤沢市	131,600	1.56
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町1丁目4番地	102,600	1.21
株式会社東和銀行	群馬県前橋市本町2丁目12-6	100,000	1.18
BARATI RAHIM	東京都大田区	100,000	1.18
鞍馬 秀輝	東京都大田区	96,600	1.14
楽天証券株式会社	東京都世田谷区玉川1丁目14番1号	91,000	1.08
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	77,645	0.92
計	-	2,228,145	26.46

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,415,300	84,153	単元株式数100株 権利内容に何ら限定のない当社における 標準となる株式
単元未満株式	普通株式 3,690		
発行済株式総数	8,420,090		
総株主の議決権		84,153	

(注) 「単元未満株式」には自己株式が30株含まれております。

【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己所有株式) 株式会社免疫生物研究所	群馬県藤岡市中字東田 1091番地1	1,100	-	1,100	0.01
計	-	1,100	-	1,100	0.01

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成30年7月1日から平成30年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、新日本有限責任監査法人は、名称変更により、平成30年7月1日をもって、EY新日本有限責任監査法人となりました。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,510,029	2,365,075
受取手形及び売掛金	203,114	168,152
商品及び製品	48,612	70,541
仕掛品	122,986	126,894
原材料及び貯蔵品	106,099	114,295
その他	6,939	30,599
流動資産合計	2,997,780	2,875,559
固定資産		
有形固定資産		
土地	122,274	114,019
有形固定資産合計	122,274	114,019
投資その他の資産		
投資有価証券	105,266	105,266
繰延税金資産	3,001	3,001
その他	66,691	71,923
投資その他の資産合計	174,959	180,191
固定資産合計	297,234	294,210
資産合計	3,295,015	3,169,770
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,772	3,550
1年内返済予定の長期借入金	146,088	139,180
賞与引当金	13,633	15,803
その他	134,659	113,673
流動負債合計	302,154	272,207
固定負債		
長期借入金	182,956	128,820
転換社債型新株予約権付社債	790,121	720,695
退職給付に係る負債	2,006	6,354
固定負債合計	975,083	855,869
負債合計	1,277,237	1,128,077
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,636,302	2,671,015
資本剰余金	1,668,682	1,703,395
利益剰余金	2,289,625	2,335,135
自己株式	1,990	1,990
株主資本合計	2,013,369	2,037,285
新株予約権	4,408	4,408
純資産合計	2,017,777	2,041,693
負債純資産合計	3,295,015	3,169,770

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	333,360	384,479
売上原価	128,940	162,614
売上総利益	204,419	221,865
販売費及び一般管理費	244,023	259,378
営業損失()	39,603	37,512
営業外収益		
受取利息	37	38
受取配当金	600	600
為替差益	705	5,466
その他	1,905	909
営業外収益合計	3,247	7,013
営業外費用		
支払利息	966	710
新株発行費	314	1,695
その他	-	20
営業外費用合計	1,281	2,426
経常損失()	37,636	32,924
特別損失		
減損損失	576	8,255
特別損失合計	576	8,255
税金等調整前四半期純損失()	38,213	41,180
法人税、住民税及び事業税	2,410	4,330
法人税等合計	2,410	4,330
四半期純損失()	40,624	45,510
親会社株主に帰属する四半期純損失()	40,624	45,510

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
四半期純損失()	40,624	45,510
四半期包括利益	40,624	45,510
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	40,624	45,510
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	38,213	41,180
受取利息及び受取配当金	637	638
支払利息	966	710
為替差損益(は益)	632	4,161
新株発行費	314	1,695
減損損失	576	8,255
売上債権の増減額(は増加)	27,616	34,961
たな卸資産の増減額(は増加)	11,902	34,034
仕入債務の増減額(は減少)	3,455	4,222
未払金の増減額(は減少)	5,058	19,381
未収消費税等の増減額(は増加)	81,344	1,297
その他	238	29,244
小計	58,069	88,536
利息及び配当金の受取額	634	635
利息の支払額	925	673
法人税等の支払額	3,337	3,926
営業活動によるキャッシュ・フロー	54,441	92,500
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金等の預入による支出	9,000	9,000
有形固定資産の取得による支出	900	-
その他	-	876
投資活動によるキャッシュ・フロー	9,900	9,876
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	-	10,000
長期借入れによる収入	-	30,000
長期借入金の返済による支出	73,044	91,044
その他	314	1,695
財務活動によるキャッシュ・フロー	73,358	52,739
現金及び現金同等物に係る換算差額	632	4,161
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	28,184	150,954
現金及び現金同等物の期首残高	2,522,102	2,450,875
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,493,918	2,299,921

【注記事項】

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、手形交換日又は決済日をもって決済処理しております。

なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形等が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
受取手形	1,536千円	千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費用及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
賞与引当金繰入額	4,823 千円	5,639 千円
研究開発費	81,876 "	92,695 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
現金及び預金勘定	2,549,068 千円	2,365,075千円
預入期間が3か月を超える定期預金	55,150 "	65,153 "
現金及び現金同等物	2,493,918 "	2,299,921 "

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1. 配当金支払額
該当事項はありません。
2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。
3. 株主資本の著しい変動
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

1. 配当金支払額
該当事項はありません。
2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、当第2四半期連結累計期間において第2回無担保転換社債型新株予約権付社債の新株予約権の行使に伴い、87,000株の株式が増加しております。この結果、当第2四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ34,713千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が2,671,015千円、資本剰余金が1,703,395千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	診断・試薬 事業	遺伝子組換え カイコ事業	検査事業	化粧品 関連事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	260,022	8,239	57,887	7,210	333,360		333,360
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,835	30	142		2,007	2,007	
計	261,858	8,269	58,030	7,210	335,368	2,007	333,360
セグメント利益又は損失 ()	46,086	86,239	4,879	4,810	40,083	480	39,603

- (注) 1. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。
2. セグメント利益又は損失の調整額480千円には、セグメント間取引消去480千円が含まれております。

当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	診断・試薬 事業	遺伝子組換え カイコ事業	検査事業	化粧品 関連事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	264,673	11,682	71,002	37,122	384,479		384,479
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,017	166	588		1,773	1,773	
計	265,690	11,848	71,591	37,122	386,252	1,773	384,479
セグメント利益又は損失 ()	42,072	100,378	12,081	8,231	37,992	480	37,512

- (注) 1. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。
2. セグメント利益又は損失の調整額480千円には、セグメント間取引消去480千円が含まれております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
1株当たり四半期純損失()	5円47銭	5円40銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	40,624	45,510
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失()(千円)	40,624	45,510
普通株式の期中平均株式数(株)	7,418,460	8,413,730

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年11月13日

株式会社免疫生物研究所
取締役会 御中

E Y新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	桂	川	修	一	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	吉	田	英	志	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社免疫生物研究所の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成30年7月1日から平成30年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社免疫生物研究所及び連結子会社の平成30年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。